私の創業時代

創業社長は語る，創業の苦労と経営

小松電機産業株式会社
代表取締役社長

小松　昭夫

八雲の自然とテクノロジー

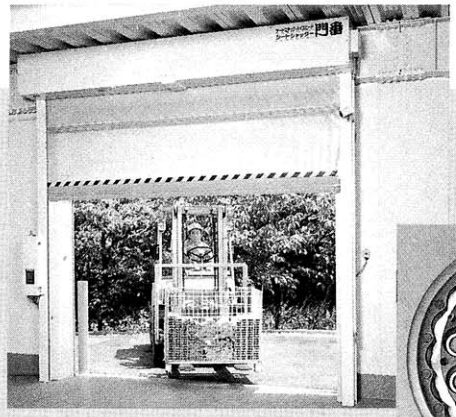
郷里で創業

わたしはもともと当地，島根県八束郡八雲村の出身です。昭和38年，松江工業高等学校の機械科を出て，地元の大手農耕機メーカーである佐藤造機（現・三菱農機）に就職，同社の中央研究所に勤務しました。ここで8年間，コンバインやバインダー，耕耘機の製品開発に従事することになったのですが，農業においても技術進歩のテンポは非常に早く，それまでにない技術を具現化した製品が求められていました。農具から農機，さらに精密機械へと質的に大きく変化しました。短い期間ではありましたが，この時の製品開発の仕事を通して，企業がダイナミックに成長していく姿を肌で勉強することが出来たと思います。

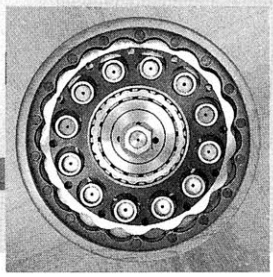
しかし，昭和46年に同社が会社更生法の適用を受けたのを機に退職しました。そこで，自分の会社を興そうと思い立ち，大阪に出ました。26歳の時です。大阪では，設計事務所や商社に勤務し，2年間，営業の勉強をしました。それまで，設計とか技術しかやっていなかったわたしにとって，モノを売ったり、カネを扱ったりするのは未知の分野だったからです。

その後，地元に戻り，会社を興しました。故郷に帰ったのは，わたしの祖母をはじめ肉親がおり，長男としていずれは家を継ぐことも考えていたからです。

創業は昭和48年2月10日です。それまでの経験から電気や機械の知識があったものですから，それを活かそうと思いました。資本金は10万円で，5万円の中古



ハイスピード・シートシャッター『門番』



シートシャッター心臓部▶

車一台，10畳分のスペースの作業場が資産のすべてでした。そして工具箱ひとつを頼りに，弟と二人で始めました。仕事は，家庭用浄化槽ポンプの修理です。元手もあまりかからないこともあって修理の請負から始めました。それで，ある程度事業資金がたまるとポンプそのものの販売へと手を拡げました。

ベンチャー企業としての基礎固め

次に手懸けたのが県内市町村の自治体向けの水の自動制御装置の販売です。はじめは，ケースや部品を買ってきてそれを組み立てて売るだけでしたが，板金塗装の技術をマスターしてコントロールボックスのケースもうちで作ろう，またコンピューターの知識を得てからはシステムからうちで設計しようとどんどん領域を拡げていきました。これで徐々に技術力を高め，それなりに付加価値を高めることができたと思います。

こういうわけで，水の自動制御装置の計装システムなどの設計・製作に追われるようになるわけですが，これは，当島根県内の水道施設建設ブームも背景にありました。

島根県はもともと平野の少ない山間の地です。雨はすぐ湖や海に流れこんでしまうため，昔から水害と渇水には悩まされていました。このため水道・下水施設の整備に迫られていたわけですが，昭和57年の「くにびき国体」開催を控え，地元市町村ではインフラ整備の需要が一気に高まりました。そして国体開催直前には県内の水道整備事業が一通り終了したわけです。

当地で創業してから足掛け10年にして，その後の当社の支えとなった経営基盤を確立することができたと思います。

八雲の地から全国市場へ

その次に当社の牽引役になったのが工場や倉庫で用いられる高速シートシャッター「門番」です。これは，フォークリ

フトなど資材運搬車両や人が近付くと，出入口についた超音波センサーが作動し，ビニール製のシャッターがモーター駆動による巻取り方式で自動的に開閉するものです。

この「門番」は，工場や倉庫の出入口で，資材などの搬入搬出の頻度が高く，常に開け閉めされる出入口に適したものです。なによりも高速で開閉されるため，作業の効率化が図られます。また，搬入搬出に伴う空気の流れを最小限に押さえられるため，空調・防塵効果を高めます。またシート部は透光性の高い防火シートを採用しているため，閉めた状態でも外部の明かりを透過させ工場内部を明るくします。こうしたことがユーザーの方々から高い評価をいただき，爆発的な反響を呼びました。

この製品は，当社がそれまで培ってきた設計技術や加工技術を応用，発展させ，社内にある生産設備をそのまま活用したものです。製品も工場や倉庫を有する数多くの企業のニーズにマッチしたことから，市場は全国に拡がりました。比較的少ないリスクでまったく新しい市場に，新しい製品を投入することができたと思います。

経営資源を見極める

今でこそ，当社は技術開発型の企業として広く認めていただいておりますが，わたしの事業展開の基本は，内部資源と外部資源を見極めることにあると考えています。

内部資源として自社に何があるのか冷静に判断し，新たな事業展開にあたってどういう経営資源が足りないかを認識するわけです。そして足りないものを外部資源に求めるわけです。その際，製品開発するにしても目標をやや高いところに設定して，チャレンジすることが大事だと思います。この目標に対して，社内で足りない資源を外部に求めるわけですが，製品開発の過程でその技術なりやり方を当社が学習出来るわけですから，内部資源の強化にも繋がります。

また，常に心掛けていることは，わたし自身が社員に対し，はっきりとした経営理念を語り，みんなで共通の目標に向かって実行することです。そして実行にあたっては出来るだけ担当者に任せることにしています。こうした環境の下で，上で述べた内部資源の蓄積が進み，これがさらに次の製品開発のためのステップとなる。これが，創業以来今日にいたるまでの成長の原動力になっていると思います。

故郷の自然と人間との調和を求めて

島根県は「水」を中心とした豊かな自

CAD/CAD

然環境と人間との調和の中に発展があると思います。

当社も市町村向けの上下水道遠方監視装置（製品名：やくも水神）を経営の柱の一つとしています。これは，さきに述べた水の自動制御装置システムの集大成でもあるわけですが，浄水場，排水処理場といった水道施設の各々の作業を自動制御するだけでなく，各種計測器で測定された数値をパソコン，電話回線を通じて自治体に送り，遠隔地で集中管理するシステムです。この「水」のビジネスは，結果として地元社会にいささかなりとも貢献していると考えております。

また，わたしは昨年，郷土の人づくり事業に取り組もうと，ＨＮＳ（ヒューマン・ネイチャー・サイエンス）研究所を設立しました。手始めに郷土の偉人にスポットをあてた人物伝記を出版しました。取り上げたのは創業の地である八雲村出身の周藤彌兵衛です。

彌兵衛翁は，いまから３百年ほど昔の江戸時代に，故郷を洪水から守るために生涯を捧げ，当地の自然と人間の調和を求めて生きた人物です。八雲村を流れる意宇川は，岩山である剣山に流れをさえぎられ，強い雨が降るとたちまち氾濫し，田畑や家を襲っておりました。そんな洪水の苦しみから，住民を救うために立ち上がったのが彌兵衛翁です。彼は，洪水の元凶である剣山を長い年月をかけてくりぬき，意宇川の流れを変えるのに成功したとされています。

こうした郷土の先人達の偉業を広く紹介することにより，地元社会に貢献できるような人材の育成にお役に立てばと思っております。

会社概要

会社名	小松電機産業株式会社
所在地	島根県八束郡八雲村東岩坂180番地
電話	0852-54-1166
創業	昭和48年２月10日
資本金	１億円
代表者	小松昭夫社長
従業員	75人
年商	32億円
事業内容	高速シートシャッターの製造販売，制御計装システムの設計・施工
海外提携先	韓国(㈱東友FA) 台湾(現代倉儲設備有限公司)